

翻刻

東京都立図書館所蔵・殿村万蔵宛小津新蔵書簡一通

菱岡憲司

東京都立図書館所蔵の渡辺刀水旧蔵諸家書簡文庫に納まる「小津久足 殿村万蔵〔常久〕宛書簡」一通を翻刻する。当該書簡は同館のTOKYOアーカイブにてWEB上で閲覧可能であるため、原書間の画像はそちらを参照していただきたい。

差出人は小津新蔵（一八〇四～一八五八）。桂窓と号する小津久足のことである。小津久足については、拙著『小津久足の文事』（ぺりかん社、二〇一六）『大才子小津久足』（中公選書、二〇二三）を参照されたい。

宛先は殿村万蔵（常久）。松坂商人、国学者。安永八年（一七七九）生、文政十三年（一八三〇）七月四日没、五十二歳。本姓は大神、名は常久、通称は万蔵、蟹麿と号する。殿村篠斎（安守）の異母弟であり、本居宣長・春庭に学んだ。

凡例

- 一、東京都立図書館所蔵・渡辺刀水旧蔵諸家書簡文庫「小津久足 殿村万蔵〔常久〕宛書簡」（渡三二二〇／渡三二二〇、43044227）一通を翻刻した。
- 一、資料は東京都立図書館・TOKYOアーカイブのパブリックドメイン画像を利用した。
- 一、読解の便宜を考慮して、適宜、句読点・濁点・括弧を施した。
- 一、漢字は常用漢字を原則として通行の字体を用いた。

当月四日出貴墨相達、忝拜見仕候。春暖之節、弥御安健被遊御座候由、奉賀度候。小子無異ニ暮申候。御安心可被下候。

一、御地之様子等御細書被下、忝拜見仕候。文晁江向ケ勤齋御申候画之事、未何之沙汰も無之候よし、承知仕候。扱ハ勤齋方より小子かたへ返事も不参、御催促可被下候様、願上候。是非御帰国之節者、御持返り可被下様、奉願上候。

一、岡部翁短冊之事、英江御申入被下段、御世話奉謝候。然ル処、其懸り之者共ハ英二居不申よし、馴共御頼置被下よし、難有奉存候。何卒是ハ御取出し奉願上候。御同前心ヲかけたる短冊之事故、是非まつ坂江引上ケ度奉存候。

一、梅之詞之事、委細承知仕候。仰之通、料者甚かしききもの也。とても乱及候直段ニ候へども、かゝる珍物よそにみすぐさんも、さすが二口をししく候故、長谷川ヲすゝめ候処、是ハ屋号ニもよしある事故、甚ほしきよし。併是とも直段ニおそれられ候よし。右兄被申候ニハ、金拾両ニ相成候ハ、買求度よし、取次被相頼候。尤貴君とても小子与御同心と奉察候。依而乍御面倒、右

一、英平吉方、右之品之外ニもまだ何やらあるよし。夫も何ニ候哉、甚ゆかしく奉存候。早々御覧被下、其品与真偽与直段与御きかせ可被下候。奉願上候。

一、『房総志料』未御手ニ入不申候よし。何卒可然願上候。

一、英二『延喜式』大寫本有之よし。仰之通かと心にく、奉存候。乍併、ガンモクタル八・九・十、欠卷ニ御座候よし。是ニ而半分之直打も下り候品与奉存候。金千疋ニ而者、不高候へども、何ヲ申候而も、めざす所が無之候而者、甚妙とも存不申候。乍併、最鳥度安ク候ハ、相求可申候へども、是ニ而者とても相求候気者無之候。一存如此ニ候。

一、英方『飛鳥井集』之事、委細承知仕候。是者未扨不申故、乍御面倒、御取

かへ被下、御払可被下候。

一、貴君様ニも少々御不快ニ被為有候よし、御察申上候。折角御自愛可被遊候。一、平田江も御尋被遊候よし。『出定笑語』之書名相及、『印度蔵志』与相成候よし。尚、『筑後・三河神名帳』之事、委細被仰下、承知仕候。何事もよろしく奉願上候。伴江も御尋不被成よし。『残桜記』ゆかしく奉存候。

一、御地之儀、春ハ春ニ而両国居、かつしかの梅など、嘸おもしろかるべし。御羨敷奉存候。

一、此元之儀、春ニ相成、思外歌も勢出来、甚大慶奉存候。長谷川も歌ヲ沢山ニ此節ハ被詠候よし也。且安守□□も御聞被遊候半、去月ハ五十首詠、向井繁房方ニ而有之、くるしかりし事、小子ハ百首コヂツケ、其中之歌、少々御めにかかけ候。且当春兼題、去年兼題之詠、残之歌もすこし計、御めにかかけ候。くちそへ候。却而御面倒与奉恐入候。先ハ右御返事、如此ニ候。急ギ乱筆御高免可被下候。尚追便早々可申上候。恐惶謹言

二月十四日

小津新蔵

殿村万蔵様

貴下

二白

旧冬御出立之砌、御願も御座候事、何分よろしく奉願上候。以上

新蔵

十四日

万蔵様

御地 江戸。

† 文晁 谷文晁。江戸の画家。宝暦十三年（一七六三）生、天保十一年（一八四〇）十二月十四日没、七十八歳。名・字・号ともに文晁、通称は文五郎。田安藩に仕え、のちに松平定信の近習となる。

† 勤斎 益田勤斎。江戸の篆刻家。明和元年（一七六四）生、天保四年（一八三三）五月二十三日没、七十歳。名は濤、字は万頃、通称は重蔵、勤斎と号す。

† 岡部翁 賀茂真淵。国学者・歌人。元禄十年（二六九七）三月四日生、明和六年（二七六九）十月三十日没、七十三歳。氏は岡部、姓は賀茂、名は春栖、通称は衛士、真淵と号す。田安宗武に仕えた。

† 英 英平吉。江戸の書肆。安永九年（一七八〇）生、天保元年（一八三〇）没、五十一歳。

† 長谷川 長谷川元貞。松坂商人。寛政八年（一七九六）生、安政五年（一八五八）四月四日没、六十三歳。名は元貞、字は禎卿、通称は治郎兵衛、梅窓・六有斎と号す。木綿問屋丹波屋の八代目主人。

† 『房総志料』 房総地誌。中村国香著。五卷五冊。宝暦十一年（一七六一）成。

† 『延喜式』 古代法典。五十卷。卷八は祝詞式、卷九・十は神名式にあたる。

† 『飛鳥井集』 『明日香井和歌集』。飛鳥井雅経の家集。

† 平田 平田篤胤。国学者。安永五年（一七七六）八月二十四日生、天保十四年（一八四三）閏九月十一日没、六十八歳。名は篤胤、通称は大角・大壑、気吹乃屋と号す。天保十二年（一八四一）に国許秋田へ帰還を命じられるまで江戸在住。

† 『出定笑語』 仏教批判書。平田篤胤著。四卷四冊。文化八年（一八一）成、嘉永二年（一八四九）刊。

† 『印度蔵志』 仏典注釈書。平田篤胤著。十一卷存（卷一〜八、卷二十三）。文政九年（一八二六）成。

† 『筑後・三河神名帳』 『筑後国神名帳』と『三河国内神名帳』。ともに一国内の諸社を記録した国内神名帳。

† 伴 伴信友。国学者、若狭国小浜藩士。安永二年（一七七三）二月二十五日生、弘化三年（一八四六）十月十四日没、七十四歳。名は信友、通称は州五郎、特・事負と号す。本居宣長の没後門人。本居大平に学ぶ。著書に『神名帳考証』がある。

† 『残桜記』 雑史。伴信友著。二卷二冊。文政四年三月二十九日成、嘉永三年刊。かつしか 葛飾。

† 此元 松坂。

† 安守 殿村安守。松坂の商人・国学者。安永八年（一七七九）生、弘化四年（一八四七）七月一日没、六十九歳。名は安守、通称は佐五平・佐六。篠斎と号す。本居宣長・春庭の門人。常久の異母兄。

十 向井繁房 本居春庭門人。後鈴屋の月次順会歌会では、文政八年一月二十二日と文政九年一月二十八日に会主(会場)となった記録が残る(拙著『小津久足の文事』へりかん社、二〇一六〇二部二章)。

本稿はJSPS科研費(23K00320)による研究成果の一部である。

(日本文化論)

# One Letter from Shinzo Ozu to Manzo Tonomura Owned by Tokyo Metropolitan Library

HISHIOKA Kenji (Japanese culture)

One letter from Shinzo Ozu(a merchant of Edo period) to Manzo Tonomura (classical scholar) owned  
by Tokyo Metropolitan Library